

放課後～10年前のワークショップでつくられた計画は…

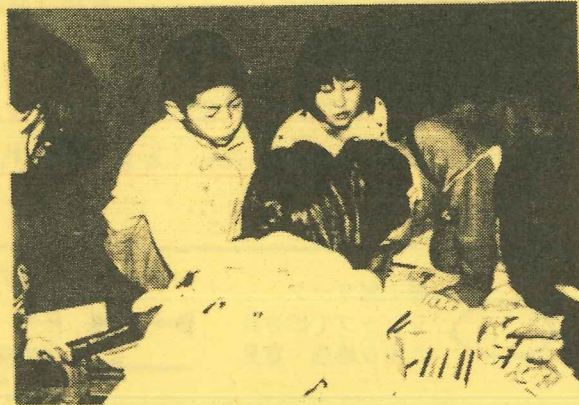
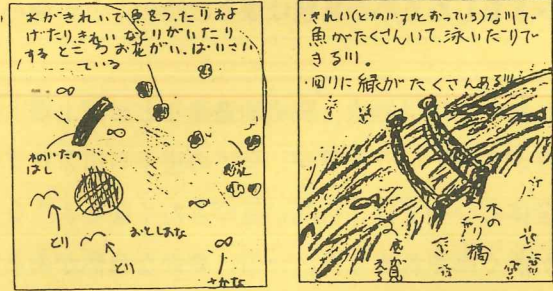
梅田川の改修にあたり、三保・新治の自然環境を活かして地域の人々に親しまれる川づくりを目指そうと、昭和62年度に基本計画がつけられました。この計画づくりでは、改修後の川の利用は子どもたちが中心となって

くるという考えから、三保・新治小学校及び十日市場中学校の子どもたちの参加によるワークショップが行われ、その意見や思いが川づくりに活かされました。ここで、この基本計画から一部をご紹介します。

子どもたちの描いた「こんな川で遊びたい」の絵から下表のようなコンセプトが生まれました

コンセプト	河川工事などにおける留意点
水がきれい生き物の住む川	川の複断面化 斜路工の導入
自然素材の川	玉石護岸、土羽の低水路の整備・三保念珠坂公園と一体化
周辺に草花などの自然がたくさんある川	河畔林、斜面林の保全 湿地の創出
安全でゴミがない川	河川清掃の実施と住民組織の育成
いろいろな遊びができる川	階段の設置・緩やかな土手 魚など水生生物の住める環境づくり

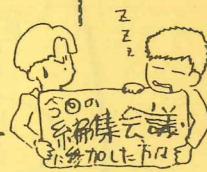
(昭和62年度梅田川環境整備基本計画報告書を元に作成)



10年前のワークショップ、その子どもたちは今。

夢を実現するために…

小学校の高等学年頃（10年前）、梅田川でどんな生き物を捕って遊んでいるか、どんな川にしたいかをみんなで話し合ったのを覚えています。私はそのとき、川遊びやサワガニ捕りをしたことを話し、そういったことができる川にしたいと話したと思います。この話し合いが10年前のワークショップであったということをつい先日知り、とても驚きました。今回のワークショップへの参加は、やはり10年前と深くかかわっており、参加することで幼い頃の自分の夢を実現することにつながると思います。私が育ってきたこの新治の自然をもっと多くの子供達に体験してもらうために、梅田川がそのきっかけになってほしいと思います。そのきっかけづくりのためにも、自分の夢の実現のためにも、このワークショップでがんばりたいと思います。（ワークショップ参加者 玉川大学3年 荒井美鈴）



班日誌

ワークショップの1回目の参加者5名の方に編集スタッフとして加わっていただきました。ワークショップと周辺の話を取り上げていきたいとアイデアも膨らみます。引き続き募集中！



酒巻一修
(さかまきかずのぶ)
35年間、川ガキを続けてます。ずっと魚や水生昆虫に遊んでもらってきましたが、そろそろ恩返しをしたいと考えてる今日この頃です。

近所を流れている梅田川、もっともてまてできたらと思ひます。
川原田

地元の沢田です。新治で、子どもたちの遊歩教室を拝見しました。山や川でも、フィールドに遊びたい三児の母です。どうもヨシク!



梅田川 水辺の楽校 新聞

第1号

■発行
梅田川・水辺の楽校
新聞編集部
■事務局
横浜市下水道局
河川部
TEL 045-671-2859
FAX 045-651-0715

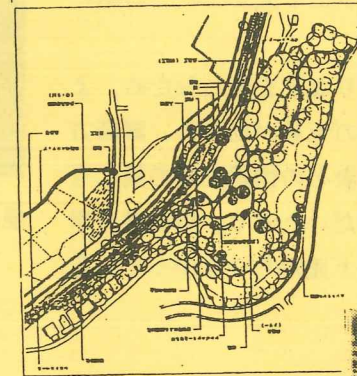
「水辺の楽校プロジェクト」と梅田川・川づくりワークショップ

子どもたちが水辺の遊びを通じて地域との関わりを取り戻し、自然あふれる安全な水辺をつくる事を目的に、新しく「水辺の楽校プロジェクト」が誕生しました。

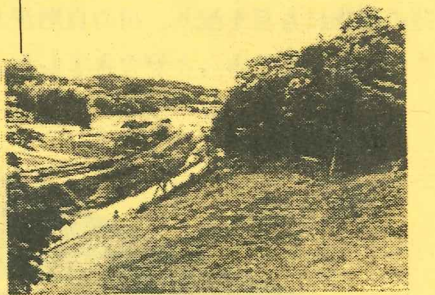
このプロジェクトでは、市民参加によるワークショップで杉沢上堰周辺のプランづくりを行うことになりました。その第1回目のワークショップの様相をご紹介します。

1 時間目 「これまでの川づくり」

平原 敏英さん（横浜市下水道局）から、地域特性や豊かな生態系などに配慮した、横浜市の多自然型川づくりについて事例を交えながらお話いただきました。また、梅田川では施工前と施工後の比較や、川の中に土でつくられた低水路工、魚が行き来できるように川底の段差をなくした斜路工、そして、川沿いの三保念珠坂公園との一体的な整備などの具体的な施工例を、スライドを使ってわかりやすく説明していただきました。



10年前に計画された三保念珠坂公園と梅田川の環境整備計画下は多自然型で改修整備された梅田川と三保念珠坂公園。



2 時間目 「梅田川の人々の暮らし」

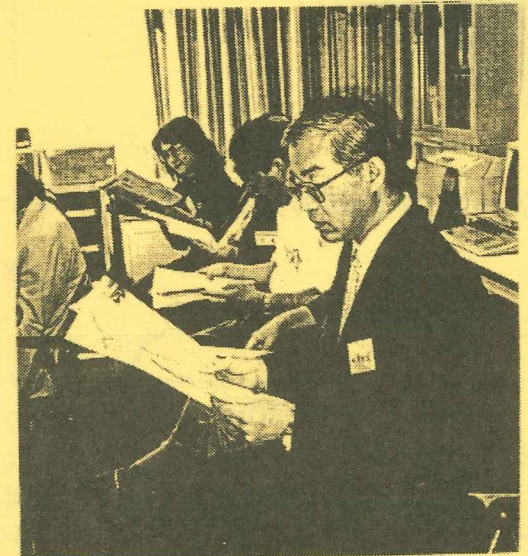
三保・新治を18年くらい前から尋ね歩いているという相澤 雅雄さん（郷土史研究家）は、主に梅田川と堰の歴史についてお話をいただきました。ここでは2つほどご紹介いたします。

○「梅田」の地名

バス停「坂下」付近に、現在小さな弁天社が祭られていますが、その昔、この社あたりには大きな池があり、「池の谷戸」と呼ばれていました。いつのころか新田開発に伴い、ため池を埋め立てて水田としたことから「埋め田」とよばれ、後に梅の字に改められて「梅田」となりました。

○昔の杉沢上堰

お寺の記録などをみると、杉沢上堰は江戸以前にまでさかのぼれるほど古い用水であることがわかります。戦前の記録では4ヶ所ほど堰があって、水田に引いていました。堰は村で共同利用していたので、周囲の集落は村落共同体といったような地域性がありました。



2時間目の講師をされた相澤 雅雄さん。梅田川の昔の写真や古地図をもとにしたお話に参加者は真剣に聞き入っていました。

参加者の声～アンケートより

・日頃見ている川とはまたちがった目で見ることができました。相澤先生のお話は良かったです。

・子どもたちに自然の大切さを教えるにはまず大人本人がよく知ることで。WSでもっと梅田川のことを勉強していく必要性がある。（歴史があって今がある）



3時間目 「杉沢上堰付近の川歩き」

今回ワークショップのテーマである杉沢上堰付近を、講師のナチュラリスト、北川 淑子さんのご案内で散策しました。

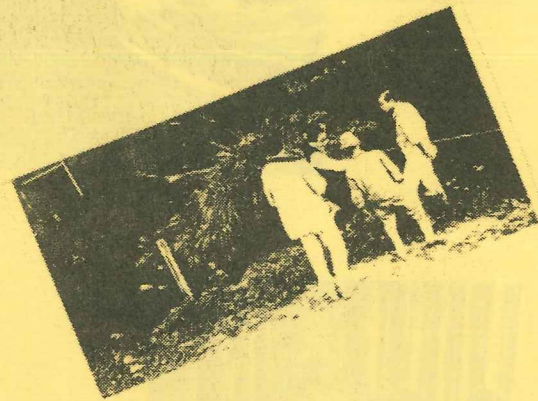
- 北川さんからは川を考えたときの留意点として、
- 川は上流から中流、下流、河口へと連なる一つの生態系であること。
- 川の周辺環境が川の景観を含めて生態系に大きく影響すること。
- 生き物たちは、それらの環境（川とその周辺環境）を総て使って生きていること。

といったポイントを、分かりやすい事例を交えながらお話いただきました。

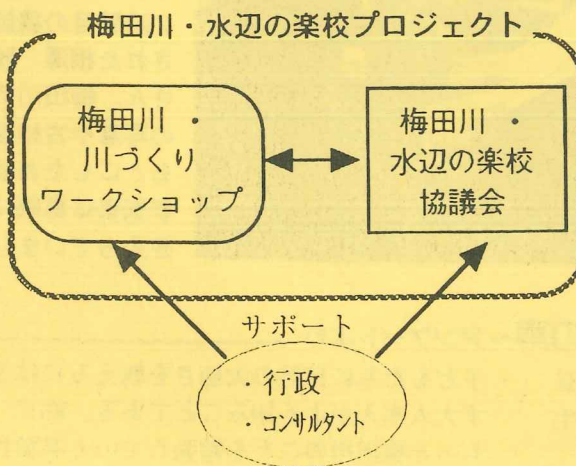
また、地元の参加者からは、「釣りなどを楽しむため、よく人が堰の辺りを訪れる」ことなどの意見が出され、講師方の一方的なお話だけでなく、参加者との情報交換の場にもなり、現地で詳しくご説明していただいたので、斜面林や岸辺の植物にも目を配り、川の自然が上流からつながっていることを肌で感じる事ができました。



堰周辺の自然について北川さんから話を聞きました。



もう一つの水辺の楽校プロジェクト～梅田川・水辺の楽校協議会



「水辺の楽校プロジェクト」は、水辺での体験活動を増やし、子どもたちの健全な育成に河川を役立てていく事業です。具体的には河川整備とともに、川と関わりを持った方々の連携をはかることを目標としています。

実はこのプロジェクトは杉沢上堰および周辺の整備案を考えるこのワークショップの他にも、水辺の楽校協議会があります。この協議会は周辺の4つの学校とPTA、町内会・自治会、市民団体、そして、このワークショップのグループリーダーが集まり、梅田川の「活用の仕方」や「維持管理」について話し合うことを目的としています。

第1回協議会は11月13日に新治小学校で、行政側も含め28人が参加して行われました。協議会の正式な設立の了承を得た後、新治小学校校長の伊達 鎮さんが出席者全員の拍手によって会の代表者に選ばれました。

4時間目 まとめよう～感じたことを発表しよう



梅田川を見た後、各グループに分かれて感想や意見を出し合いました。



堰周辺の川歩きの後に、今回の講師の方々のお話や現地見学で「感じたこと」「こうなってほしいこと」を班ごとに話し合いました。そして、地図上に感想や意見を整理して、これらを最後に発表しました。直前に川歩きをしたためか話題は堰と自然のことが中心となりました。

生き物とのふれあいや防災拠点、歴史的遺産など杉沢上堰と周辺はいろいろな可能性があるという意見が、全ての班から出されました。

また、梅田川全体については、自然に近づきたくるような川にしたいという意見が多く出されました。一方、豊かな自然がある反面、危険も伴うことを指摘する声や、自然を損なうような整備は避けるべきであるなどの意見も出されました。

2回目以降のワークショップではこれらの意見を、実際どのようにプランに反映させられるのかが話し合われていくと思われます。

5つのグループでの感想・意見のまとめ

